

スタート地点を 「ゴール」と勘違いするな

プロに入ってから

途端に伸びなくなることがある。

プロに入ることが

目的になってしまっているからだ。

▼『超二流』

本来、「スタート」であるはずのものが「ゴール」となってしまうのはよくあることです。例えば、受験勉強を経て大学に合格したとたんに、「もう勉強しなくて良いや」となる大学生などがその典型です。

野村克也によると、プロ野球の世界に入ってくる選手の中にも「プロになっただけで満足してしまう」選手がいて、こうした選手は往々にしてそこから伸びなくなってしまうといえます。プロに入るような選手はみな、何か「良いもの」を持っており、小さい頃からプロ野球選手を目指して頑張っています。

それだけに「プロになる」ことは「夢を叶えた」ことになるわけですが、そこで「プロになった自分は凄^{すご}い」と満足するのではなく、そこを「スタート地点」として競争に臨む覚悟が大切だというのが野村の教えです。

成長していくうえでの大敵は「妥協」することであり、「満足」することです。自分を凄^{すご}いと思いつつ、そこで成長は止まります。常に自分を客観的に見つめ、「まだまだ」と妥協せず謙虚に努力してこそ、人は成長し続けることができるのです。人生のゴールは、誰にとっても遙か先にあるのです。